

# 夢窓幼稚園通信第47号

2014年 9月 30日

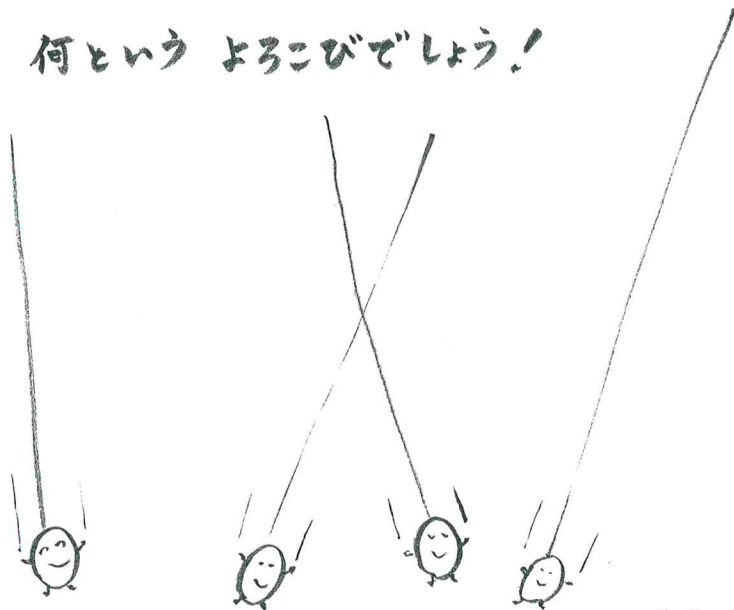
子どもの頃は 今よりも もっと土に近かったと思います。  
文字通り 地面の上を生きていて、素足で走り回ったり  
はいつくばって過していたので いつでも土の匂いをかいで  
いましたし、その冷たさや しめり気が身近でした。  
土は 自分にとってとっても近い存在でしたから 仲のいい  
友だちでした。

大人もみんな おひさまが好きですが、子どものときは  
もっと おひさまと仲良しでした。 おひさまの光を  
いっぱい浴びてあそぶ 子どもたちは、まさしく  
おひさまの子ども そのものでした。

子どもたちは(もちろん私たち大人も) 太陽と大地の  
間を生きています。  
そしてその間で働く 風と火による熱の力に支えられ  
過しています。

秋空の下 子どもたちが 今日もおひさまと大地の間に  
かぶよく立っています。 自然を形作る様々な力を感じ、  
総りとしてもたらされるものを受けとりながら生きて  
います。

何という よろこびでしょう！



園長 升光 泰雄

この絵の話は また今度・・・